

＜学力の向上＞

〔4段階評価〕 4：大変よい 3：概ねよい 2：やや改善を要する 1：改善を要する

評価項目	評価指標	具体的目標	方策・手立て	自己評定	関係者評定	結果の考察・分析及び改善策等 【○ 関係者コメント】	
【重点目標】 ○ 児童一人一人の学力向上を図る教育を推進する。							
学 力 向 上	学 習 指 導	授業改善による指導力の育成	授業改善の4つのチェックポイントに基づいた授業構想に努める。 県・全国学力調査等の結果を踏まえた授業改善に努める。	教科本来のねらいを達成する授業展開を目指し、日々の授業の工夫・改善を図る。 主題研究及び学校訪問の成果を教師一人一人の授業力向上に生かす。 デジタル教科書及び電子黒板を有効に活用する。 県・全国学力調査等の結果を踏まえ、8月に学力向上研修会を実施し、調査結果を生かした授業改善に努める。 （本校独自に調査を実施）	3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 読解力の向上と「授業改善の4つの視点」を踏まえた授業づくりに力を入れてきた。第1学期の一人一授業及び第2学期の学年間相互参観授業を通して、授業改善に向けた実践的な研修を深めることができた。 第2・3学年で実施したNRTでは、ほぼ全国レベルの結果（偏差値50）が得られた。 本校独自に実施した全国（6年）及び県（4・5年）学力調査の結果を基に、8月に学力向上研修会を実施した。その中で、今後の具体的な対応策を協議し、学年間の共通実践に当たった。
		読解力の育成	書かれている文章を速く正確に読み取ることができるようにする。	主題研究において、読解力（リーディングスキル）の育成を図るための実践的な研究を推進する。 授業構想に当たっては、「めあて」と「まとめ」の整合性をもたせるとともに、リーディングスキルの向上に係る手立てを盛り込む。			<ul style="list-style-type: none"> 授業を『おわりからはじめへ』逆向きに構想したり、「めあて」と「まとめ」に整合性をもたせる授業づくりを重視したりしてきた。さらに、読解力（リーディングスキル）の向上に係る手立てを明確にした授業を積み重ねてきたことで、1単位時間における児童の読み取りに一定の成果（速さ・正確さ）が現れ始めた。
		基礎的・基本的な内容の定着	単元末テスト平均80点以上を目指す。 活用問題対策を含めた朝の活動の時間「ぐんぐんタイム」を計画的に実施する。	各教科の基礎的・基本的な内容の定着を図り、「分かる・できる」まで教える指導を徹底する。 算数科のWeb評価問題や国語科の活用問題、学力調査過去問への取組を継続する。 「ぐんぐんタイム」を活用し、「Web学習単元評価システム」の活用を継続し、基礎・基本の確実な定着を目指す。なお、国語・			<ul style="list-style-type: none"> 『学習内容の確実な定着』に関する教師アンケートの結果からは、92%の肯定的回答が得られた。（4段階評定での「4」は23%） 『学習内容の理解』に関する児童アンケートの結果からは、94%の肯定的回答が得られた。 算数科のWeb評価問題に加え、これまでに整備した国語科の活用問題への取組を位置付けた「ぐんぐんタイム」の確実な実施と、学年間の共通実践に努めてきた。 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、手

学 力 向 上	学 習 指 導		算数の活用問題については、解説・振り返りを重視する。 「NRT（教研式標準学力検査）【第2・3学年】」や「みやざき小中学校学習状況調査【第4・5学年】」「全国学力・学習状況調査【第6学年】」の結果を踏まえ、学年における具体的な対策を明確にし、学年間の共通実践に努める。なお、取組の成果については、年度末に実施する「CRT（教研式標準学力検査）【全学年】」で評価する。	3	洗い・消毒の時間を確保するために「ぐんぐんタイム」を5分間短縮した。短縮した時間の中で、内容を精選した効果的な実施が必要である。 ・ 1月に実施したCRTの結果を分析するとともに、学年末には、『学びの確認』の場を設定し、当該学年までの学力の定着に努める必要がある。 ○ 学力も向上しているのだからこれからも期待している。 ○ 学習内容の理解・定着に関して肯定的な回答が多いといった結果から、児童の学力が安定して身に付いてきているのだと考える。 ○ 授業時間が短い中、学習内容の理解・定着が図られている。	
		個に応じた指導の充実	町学力向上サポーター及び少人数指導推進教員の有効活用を図る。		第3学年から第6学年については、町学力向上サポーター等を学年付きとし、国語・算数を中心に少人数指導やTTとして関わりながら、個に応じた指導を行う。	・ 町学力向上サポーター等の活用の在り方を見直したことで、第3学年以上の国語・算数の個に応じた指導が充実してきた。 ・ 『効果的な少人数指導の実施』に関する教師アンケート結果からは、92%の肯定的回答が得られた。
		基本的な学習態度の育成	立腰指導を重視し、話を聞く態度を育成する。 予鈴着席及び本鈴黙想を徹底させる。 学級経営の充実を図る。		立腰指導を通して、姿勢を常に意識させるとともに、やる気や集中力、持続力を高め、心と体の健康を高める。 予鈴着席、本鈴黙想を徹底させるため、月1回「チャイムの日」を設定し、落ち着いて学習に取り組む意識を高める。また、本鈴黙想の目的（心を落ち着かせ、次の活動に集中する気持ちを高める）を理解させる。 新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う行事の精選・見直しにより、児童と向き合う時間の確保に努め、落ち着いた学級経営に努める。	・ 学習態度の育成に係る姿勢指導については、学校の重点課題ととらえ、立腰指導を継続している。 ・ 毎月「チャイムの日」を設定し、予鈴着席及びチャイム黙想に全校で取り組んでいる。意識化がかなり図られてきたものの、『学習中の姿勢指導の徹底』に関する教師アンケート結果は、69%の肯定的回答にとどまっており、継続的な指導が必要である。4段階評定での「4」は15%にとどまった。 ・ 「立腰」の号令で「ハイッ」と返事をする習慣は定着しつつある。 ○ コロナ禍での学力向上は、大変難しい状況であったと考える。姿勢指導は、学習への集中と共に礼儀作法を身に付け、かつ健康維持向上にもつながると考えるので、更なる向上を希望する。

学 力 向 上	読書の習慣化	読書目標を達成する。 (多読賞目標冊数/学期当たり) 低学年：30冊 中学年：20冊 高学年：15冊 (ファミリー読書目標時間/1日当たり) 低学年：5分 中・高学年：10分	学年部ごとに設定した読書冊数の目標達成に向け、働きかけを継続する。 親子での読書を奨励し、家庭読書の習慣化を図る。 地域の読み聞かせボランティア(木城えほんの郷・おはなしのポケット)の協力を得て、読書活動の充実や読書環境の整備に取り組む。	3	<ul style="list-style-type: none"> 9月からの図書館イベントをはじめ、ファミリー読書等読書週間の取組を通して読書目標達成への働きかけを強化したことにより、9月・10月の貸出冊数が増加した。 1月末段階での学校図書利用総冊数は、約35000冊であり、児童一人当たりの貸出冊数は、約107冊(約12冊/月)となった。 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、地域の読み聞かせボランティアの依頼はしていない。 『読書の習慣化』に関する児童アンケート結果は84%の肯定的回答にとどまっており、16%の児童が「本をあまり読んでいない」と回答していることから、読書への関心を高める継続的な働きかけが必要である。 ○ あまり本を読まない児童をいかに本好きにするかが課題だと思う。読書の習慣が身に付けば学習にも効果が表れると思う。
	家庭学習の充実	家庭学習時間を確保する。 (学年部別の家庭学習時間の目安) 1年 20分以上 2年 30分以上 中学年 40分以上 高学年 60分以上	見直しを図った家庭学習の手引をもとに、家庭学習時間の確保に努める。 学習内容の定着を図るため、学年の発達の段階に応じた適切な課題を与える。 家庭学習内容の点検・見届けに係る保護者への働きかけを継続する。	3	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境部の働きかけにより、学年の発達の段階を考慮した適切な課題の量や内容を設定した。 (日常的な課題及び長期休業中の課題について) 参観日の懇談会や通信等を活用して、家庭学習の見届けを継続的に働きかけたり、保護者からの返信等も活用して双方向のやりとりを行ったりしてきた。 『家庭学習充実への指導』に関する教師アンケート結果からは、91%の肯定的回答が得られた。 『家庭学習の充実』に関する保護者アンケート結果からは81%の肯定的回答が得られたが、4段階評定での「4：よくあてはまる」は23%にとどまった。 ○ 授業の理解面では一定の成果をあげているが、読書習慣や家庭学習習慣についての保護者評価が低い点が気になる。 ○ 読書習慣と家庭学習の充実については、継続的な働きかけをお願いしたい。

＜人間力の向上＞

〔4段階評価〕 4：大変よい 3：概ねよい 2：やや改善を要する 1：改善を要する						
評価項目	評価指標	具体的目標	方策・手立て	自己評定	関係者評定	結果の考察・分析及び改善策等 【○ 関係者コメント】
【重点目標】						
○ 「凡事徹底」をキーワードに、人間力の向上を図る教育を推進する。						
心 の 教 育	基本的な生活習慣	<p>凡事徹底の強化</p> <p>相手を思いやる心の育成</p>	<p>凡事徹底を踏まえ、当たり前のことを当たり前に徹底して行おうとする意識を高める。</p> <p>「当たり前の五か条」を『基本の凡事徹底』とし、この5項目の実践・定着を図り、波及効果をねらう指導を継続する。 『あいさつ』『返事』『はきものならべ』『右側歩行』『予鈴着席・本鈴黙想』</p> <p>学校全体や各学級で自己存在感を高め、相手を認め、思いやる心を意識させる指導を行う。</p>	3	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『基本の凡事徹底に係る指導』に関する教師アンケート結果からは100%の肯定的回答が得られたものの、4段階評定での「4」は8%にとどまった。 ・ 中でも「トイレのスリッパ並べ」については、徐々に改善がみられるようになってきたと感じるが、まだ十分ではない。 ・ 「凡事徹底」の指導については、長期的な視野に立ち、指導を継続している。 ・ 『規範意識の高揚を図る指導』に関する教師アンケート結果からは92%の肯定的回答が得られたものの、4段階評定での「4」は8%にとどまった。 ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、集団の中で互いの人権に配慮した適切な行動を促す指導に力を入れた。（学校閉鎖明け：5月） ○ 凡事徹底をはじめ、すべてにおいて努力している姿が見受けられる。 ○ 心の教育は、多様性を認めることだと考える。学校内外で児童の様子が異なる場合もあるため、学校外からのケアサポートや、多様性・受容性を身に付けさせる工夫も必要だと思われる。
	基本的な生活習慣	<p>生徒指導の充実</p>	<p>児童の自主的な活動を促す。</p> <p>一日の落ち着いたスタートを切るための児童の自主的な活動として、登校後の静かな読書及び「月の歌」の歌唱への働きかけを継続する。 生徒指導の三機能を意識した授業の実践と、称賛や承認の場を意図的に設定し、児童の自尊感情を高める。 あいさつ・返事を中心に指導を徹底する。 児童一人一人に、</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎朝の「月の歌」歌唱が定着したことで、全校児童による美しい歌声が聞かれるようになった。また、月の歌から朝のあいさつ、健康観察へと、スムーズな一日のスタートを切ることができるようになった。 ・ 教師アンケート結果からは『清掃場所でのチャイム黙想』100%（4段階評定での「4」は69%）、『無言清掃の指導徹底』92%（4段階評定での「4」は23%）の肯定的回答が得られた。 ・ 『元気な返事』に関する保護者アンケート結果からは、89%の肯定的回答が得られたが、『あいさつ』については73%

		基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識を高める。	清掃場所でのチャイム黙想と無言清掃を徹底する。 「あいさつ」「返事」を中心に、基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を継続する。		にとどまった。(4段階評定での「4」は25%) ・ 児童の朝のあいさつに元気のなさが感じられる。第5学年児童の数名が、自主的なあいさつ運動に取り組んでいる。今後は教師による実態把握と地区担当による登校班指導に力を入れたい。 ○ 児童が朝から元気がないのは、家庭でのゲームやスマホなどの使い過ぎもあるのではないかと思う。 ○ 清掃が静かにできるというのは、素晴らしいと思う。言葉遣いが少し気になる。場に応じた言葉がつかえているだろうか。
生徒指導	いじめ・不登校対策の充実	いじめ及び不登校対策として、教育相談の充実とラポール委員会の適正な運用を図る。 児童の実態を適切に把握し、きめ細かな指導に心掛ける。	定期的なアンケート(なかよしアンケート)と計画的な教育相談を実施する。 ラポール委員会を充実させ、いじめ・不登校の早期発見、早期対応に努める。 いじめ等防止基本方針に則して組織的な対応に当たる。	3	・ いじめ・不登校対策委員会(ラポール委員会)の在り方を再確認するとともに、発生した事案に対する対応策を共通理解する場とし、組織的・継続的にチームとして関わっていけるシステムを整えた。 ・ 『いじめ等の防止・解決への取組』に関する教師アンケート結果からは85%の肯定的回答が得られた。今年度も「いじめ等防止基本方針」についての職員研修を実施した。 ○ いじめ防止対策基本法に基づき、いじめ防止のための対策を総合的かつ効果的に推進できるように更なる改善を求めたい。また、校長のリーダーシップの下、いじめ防止等のための取組が全職員に理解され、確実に遂行されるよう努めてほしい。
	交通安全指導の徹底	交通安全指導を徹底し、児童の安全確保に努める。	交通安全指導について継続的に実施し、意識の啓発を図る。 自転車のヘルメット着用を更に推奨する。		・ 『安全な登下校指導』に関する教師アンケート結果からは92%の肯定的回答が得られたが、4段階評定での「4」は15%にとどまった。 ・ 今後も職員による実態の把握と、地区別の指導に力を入れる必要がある。 ・ 『日常的な生活安全指導』に関する教師アンケート結果からは92%の肯定的回答が得られた。

＜健康・体力の向上＞

〔4段階評価〕 4：大変よい 3：概ねよい 2：やや改善を要する 1：改善を要する						
評価項目	評価指標	具体的目標	方策・手立て	自己評定	関係者評定	結果の考察・分析及び改善策等 【○ 関係者コメント】
【重点目標】						
○ 児童一人一人の健康・体力向上を図る教育を推進する。						
体力向上	体力づくり	<p>体力の向上</p> <p>体育学習及び体育的行事、日常的な運動の呼び掛けから、体力の向上を目指す。</p> <p>運動技能・運動能力を高める。</p>	<p>体育の時間の導入時にサーキットトレーニングや、なわとび、持久走など体力づくりのための基本運動を取り入れる。</p> <p>体力向上月間を設定し、なわとびや持久走等の体づくり運動を計画的に実施する。</p> <p>昼休みの外遊びを奨励し、遊びの中で運動量を確保する。</p> <p>体育指導を計画的に進めるとともに、体力向上プランを適切に実践することを通して、「長座体前屈」「反復横とび」「50m走」の能力を高める。</p> <p>体力テスト結果をもとに、個人カードを用いて、個人目標をもたせながら継続的に取り組ませる。</p>	3	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の体力テストは中止となった。例年のA判定児童の割合は、約10%である。 ・ 体力向上プランを日々の体育科授業で実践していくことが課題である。 ・ 『体力向上プランを生かした指導』に関する教師アンケート結果からは67%の肯定的回答が得られたものの、4段階評定での「4：よくあてはまる」は0%であったことから、今後もプランの共通理解と適切な実施が課題である。 ○ 他の項目に比べ、『体力向上プランを生かした指導』に関する教師アンケート結果の「肯定的回答67%」は低いのではないかと思う。 ・ 11月・12月に持久走運動月間を設定し、計画に沿って確実に実施した。ただし、今年度は密を避けるために低・中・高学年別の実施した。 ○ 体力には個人差があると思うので、児童一人一人の得意な部分を引き出して指導してほしい。持久走大会は、コロナ禍の中で、児童の一生懸命な姿を見ることができた。 ○ 運動会や持久走大会など、分散等の工夫をしながら実施に努めてもらった。
	健康教育	<p>健康的な生活習慣の定着</p>	<p>「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズム100%定着を目指す。</p> <p>朝食摂取や就寝時刻等の実態を把握し、健康的な生活への意識付けを図る。</p> <p>(就寝時刻) 低学年21:00 中学年21:30 高学年22:00</p>	<p>「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、一日の生活リズムを身に付けさせる。</p> <p>健康観察を充実させ、日頃の児童の身体の状態を常に把握する。健康観察簿の集計や保健日誌から、児童一人一人の心身の状況や疾病等の様子を把握し、必要な指導を行う。</p> <p>健康診断による結果については、家庭と協力しながら、早期の受診につな</p>	3	

体 力 向 上		むし歯予防とむし歯治療率80%以上を目指す。	げるとともに、保健だよりによる家庭への働きかけを継続する。 むし歯予防とむし歯治療の働きかけを推進する。		アンケート結果からは、98%の肯定的回答が得られた。 ○ 児童は、立腰の姿勢を保つことができているだろうか。文字を書く筆圧も大丈夫だろうか。 ・ 年度当初の歯科検診等の結果をもとに、保護者への啓発文書を発送したり、様々な機会に治療の達成状況を知らせたりしている。 ・ 1月末段階でのむし歯治療率は70%であった。 ・ 10月に治療状況を把握する調査を実施し、12月には未治療の家庭に対し、再々勧告を行った。2月に最終勧告を行うことにしている。
	食に関する指導の推進	安全に配慮した給食指導の充実を図る。	給食当番をはじめ、係の仕事内容を明確にして安全に活動させるとともに、係以外の児童は全員席に着いて静かに待たせることを徹底する。 食に関する指導全体計画に則した指導に努め、給食指導の充実を図る。 給食時間の適切な運営を目指し、搬入→配膳→食事→片付け→搬出の一連の流れをスムーズにさせるための現場指導を重視する。 給食センターや保護者との連携の下、食物アレルギーによる事故を未然に防ぐ。 給食前に10分間の手洗いと消毒の時間を設定し、徹底した衛生管理に努める。合わせて、放課後にも時間を設定し、全職員による消毒作業を実施する。 低・中学年の学級活動や高学年の家庭科での食に関する指導において、栄養教諭(学校栄養職員)とのTT指導に当たる。 ワークシートを活用し、「弁当の日」の取組を充実させる。	3	・ 『給食当番への指導』に関する教師アンケート結果からは86%の肯定的回答が得られた。 ・ 給食センターや関係職員の協力により、食物アレルギーの事故も現在起きていない。 ・ 『食に関する指導の充実』に関する教師アンケート結果からは73%の肯定的回答が得られたが、4段階評定での「4」は0%であったことから、今後も食に関する指導全体計画を見直しながら適切な指導に努める必要がある。 ・ 『手洗い・消毒の徹底』に関する児童アンケート結果からは96%の肯定的回答が得られた。(保護者アンケート結果では92%) ○ 体育は、徳育との関わりが大きいと考える。心身の健康づくりを目指す取組に今後も力を入れてほしい。 ・ 学級活動や日々の給食指導において食に関する実践的指導を行う一方で、10月に設定した「弁当の日」の取組を生かし、家庭への啓発も継続している。
	食育	食に関する指導の充実を図る。 年2回の「弁当の日」の取組を推進する。			

＜特別支援教育の充実＞

〔4段階評価〕 4：大変よい 3：概ねよい 2：やや改善を要する 1：改善を要する							
評価項目	評価指標	具体的目標	方策・手立て	自己評定	関係者評定	結果の考察・分析及び改善策等 【○ 関係者コメント】	
【重点目標】							
○ 心豊かな児童を育てる特別支援教育を推進する。							
特別支援教育	児童理解と組織的な支援	支援を要する児童の理解	児童理解と組織的な支援に努める。	通常学級、特別支援学級在籍を問わず、個に応じたきめ細かな指導に心掛ける。 特別な教育的支援や配慮を要する児童について、全職員で共通理解を図り、指導に当たる。 職員や通常学級の児童、保護者へ障がいがある児童に対する理解を深め、心豊かな児童を育てるために、交流教育・福祉教育を実施する。 特別支援教育コーディネーターが、町雇用特別支援教育サポーター2名を通常学級に計画的に配置することにより、効果的な支援体制の構築を図る。	3	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『特別支援教育体制の充実』に関する教師アンケート結果からは71%の肯定的回答が得られた。 ・ 一方、『特別支援教育の理解啓発』に関する教師アンケート結果は38%の肯定的回答にとどまった。 ・ 今年度は、居住地校交流の計画的な実施ができなかった。「県立児湯るびなす支援学校との交流学习の実施」(例年10月・1月の実施) ・ 特別支援教育推進委員会を機能させるとともに、支援学校より講師を派遣してもらい、検査や観察、フィードバック等を計画的に実施することで、特別な教育的支援を必要とする児童の実態把握と、合理的配慮に努めている。 ・ 町雇用特別支援教育サポーター2名の配置により、支援体制が整いつつあるが、更なる支援時間の確保も望まれる。 <p>○ 特別支援教育サポーターの先生方と児童との信頼を感じている。特別支援教育について、保護者や地域住民にもう少し理解できるような講話等を実施してはどうだろうか。</p> <p>○ 障がいのある児童や保護者一人一人の教育的ニーズに的確に応える支援が提供できるように、学びの場の整備に努めてほしい。</p>
	関係諸機関との連携	地域全体で特別支援教育を推進する。	保護者及び地域社会、医療・福祉機関との連携を図り、地域全体で児童を育てる。	3			

＜信頼される学校づくり＞

〔4段階評価〕 4：大変よい 3：概ねよい 2：やや改善を要する 1：改善を要する						
評価項目	評価指標	具体的目標	方策・手立て	自己評価	関係者認定	結果の考察・分析及び改善策等 【○ 関係者コメント】
【重点目標】						
○ 信頼される学校づくりを推進する。						
信頼される学校づくり	ふるさと教育	ふるさと教育の推進	ふるさと木城に学び、誇りや愛着を生む教育を推進する。	<p>様々な体験活動を通して、地域の文化や人との関わりを学ぶ学習を実施する。</p> <p>総合的な学習の時間や学校行事等に、地域のよさを知るための教材を取り入れる。</p> <p>小中一貫合同研究会において、「ふるさと教育」及び「キャリア教育」を中心に、義務教育学校への移行に向けた取組を推進する。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年度より、運動会の全校踊りとして、「木城ふるさと音頭～比木地踊り」を取り入れている。6年目となる今年は運動会での披露ができなかったが、保存会の協力により参加者の規模も年々拡大し、ふるさと木城を大切にすることを育む貴重な場となっている。 ・ 今年度は、町教委が示す4つの柱のうち、キャリア教育及びふるさと教育について更に研究を進めている。 (義務教育学校準備委員会及び教育研究員研究会との連携も図りながら) ・ 目指す児童生徒像を明確にするための小中合同による協議を行った。(9月)その結果を今後の学校づくりに生かしていく必要がある。 ・ 12月には町民との熟議を実施した。その結果も今後の学校づくりに生かしていく。 ○ 町民と教職員による熟議が開催され、ふるさと教育の推進が図られた。今後も継続的に実施していただき、結果についても今後の学校づくりに生かしてもらいたい。 ○ 令和5年度に開校する義務教育学校に向け、これからも信頼される学校づくりに努力してほしい。 ○ キャリア教育とは、児童一人一人が木城小学校を誇れることにあると考える。つまり、児童が学校を信頼できれば、地域からも信頼されることになる。
	人材活用	地域素材・人材の活用	地域の物的・人的教育資源を生かした学習を重視する。	<p>「木城っ子安全守る隊・応援隊(現在31名)」の協力による登下校及び教育活動の見守りを継続する。</p> <p>木城えほんの郷及び読み聞かせグループ「おはなしのポケット」の協力を得、読み聞かせ活動を充実</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の願いや要望を考慮した懇談会の話題の設定や、子育てに係る情報提供など改善を図ることにより、懇談会出席率の維持に努める必要がある。 ・ 今年度は、協力者による読み聞かせを実施しなかった。 ○ ふるさと教育の充実に向け、校外学習も兼ねて実際に出かけ、触れたり体験したりするこ

		参観日の出席率80%以上を目指す。	させる。 PTAによる登校立番指導を学期1回実施する。 保護者と連携し、家庭学習習慣や家庭生活習慣の形成に向けた働きかけを継続する。 参観日の懇談会・HP・安心メール等による定期的な情報発信に努める。		とも検討してほしい。 ・年間参観率は91%、年間懇談率は78%という結果であった。 ○参観日の出席率の高さから、保護者の学校への関心が高いことが分かり、安心した。
学校評価	学校評価制度の活用	年3回の学校関係者評価委員会を実施し、学校評価結果を生かした教育課程の改善に努める。	組織としての学校運営に努めるとともに、学校自己評価結果を改善に生かす。 (学校関係者評価委員会の実施/6月・12月・2月)	3	・学校関係者委員会は計画的に実施できている。 ・1月には学校自己評価書原案を作成し、その結果を「意見取りまとめ用紙」と共に、学校関係者評価委員に示した。委員から「意見取りまとめ用紙」にコメントと評定を記入してもらい、2月に第4回学校関係者評価委員会を開催した。

＜校長所見＞

<p>次年度の方向性についての校長の所見</p>	<p>学校経営ビジョンをもとに、「凡事徹底」をキーワードに「学力の向上」「人間力の向上」「健康・体力の向上」「特別支援教育の充実」「信頼される学校づくり」の5つの観点から学校経営を進めており、年度当初の計画を学期ごとに評価しながら、改善できる点については即修正し、実施してきた。</p> <p>「凡事徹底」については、繰り返し啓発することで、児童にもかなり浸透してきた上、職員による継続的な指導で意識化され、様々な場面で生かされつつある。</p> <p>「知育」に関しては、授業改善の4つのポイントを重視し、児童が「分かる・できる」まで教える授業づくりを推進してきた。立腰指導やチャイム黙想をもとに、望ましい学習習慣を定着させた上で、基礎学力の定着を図った。特に算数・国語においては、町雇用の学力向上サポーター等を効果的に活用し、きめ細かな指導を実施することができた。次年度も、「読解力」の向上については継続的に指導方法や指導体制を工夫していきたい。</p> <p>「徳育」に関しては、児童の明るい元気なあいさつと履き物並べについて、継続した指導の必要性を感じた。また、学級経営の充実に向け、組織的な取組の下、各学級のまとまりや落ち着いた様子を見守っていくことが重要である。小学校では、「いじめ」と認定される事案は必ず発生するということを前提に、定期的なアンケート調査や教育相談を継続し、初期対応やその後の見守りを十分に行い、「いじめ解消100%」「いじめ継続0」を図りたい。</p> <p>「体育」に関しては、体力テストの結果を生かしつつ、児童がバランスよく体力向上を図ることができるように指導を継続している。また、昨年度に引き続き、むし歯治療率が改善してきている。中学校の状況も踏まえつつ、今後も更に高い治療率を目指したい。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、校時程を見直し、手洗い・消毒の時間を設定し、徹底して感染防止に努めてきた。</p> <p>「特別支援教育」に関しては、特別な教育的支援や配慮を要する児童について、全職員で共通理解を図り、合理的配慮をもって指導に当たりたい。</p> <p>家庭・地域社会に対しては、学校からの配付物を適時発行し、また学校のホームページ等も活用し、学校の様子を知らせてきた。必要に応じ、安心メールも有効に活用できた。</p> <p>次年度も、信頼される学校づくりに向け、校長の学校経営ビジョンに連動したきめ細かい評価を行うことで、学校経営の充実を図りたい。</p>
--------------------------	--